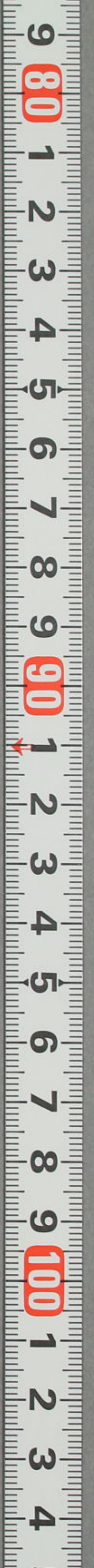
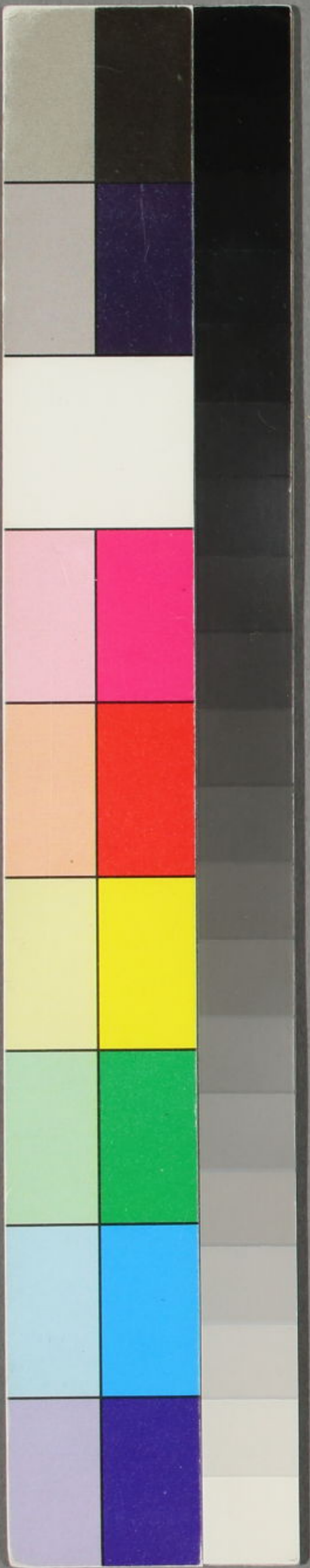


古画相撲圖一丁
牛着人形衣慶三丁
浅草並木棧茶浅草寺船形手水鉢一丁
言弘結帶一丁
岡崎女郎裏手古代ゆきひきり一丁
覆本其角傳六丁
其角兩巧考十一丁
金龍山奈良茶飯十一丁
芝神明千木櫃考十一丁

近世考の伝考 三



近世奇跡考卷之三

まきの
ほん

江戸



特塚庫

山東軒主人著

① 古画相撲圖

下ふあふまに相撲の古画ハ時代詳あり。画者四明の山人。又詳ふ
 下。後の明鑿を俟の。相撲大全と案る。山州千葉寺八幡宮
 再建不付。正保二年六月。下鴨會式の内。十日が間奥行也。是京都勸
 進相撲のなとり。江戸寛永元年。明石志賀之助寄相撲と名
 づけ。四谷塩町にて。晴天六日奥行也。是とめ。大坂元禄五年。袋
 屋伊ち多つと云者。南堀江高木を橋助立花通り。始て奥行也。
 下の古画のこゝにあく。見物の意ふまをもちて。又水。予ハ神事相
 撲ありん。予も下。寛永中江戸糸屋町にて。後ハ勸進相撲あり。寛
 永一十年印存。古田勘語。同年印存。吾妻のり。あふん。



古画相撲圖 縮景



四明

右後の上左右不此置あり一紙ふ
をさあぐさるを以て別ふあり
合せるるべし



武清所藏

二 牛若木偶衣裳

象翁曰操芝居牛若の人形歌舞妓芝居牛若扮する衣裳
鳥居玉垣三々杉の模様を付さぬハ牛若と見え今ふあつて
あれど其本據を知らぬ人まれ昔土佐の芝居ハ人形を以て能を
こま間不淨瑠璃をかくりりるが寛永二十年板あつ物語曰年板吾妻め
記こま牛若の人形ふかの模様をつけし。これ幸若のこまの

烏帽子折えがしとつふものぶん支おもとつきて。付くるも模様のよし。寛政十一年せんじゅういちねん存生ぞんじやうの日のくりりさ。家翁けうわう八享保七年の生なあねハかの八十余の老人らうじんとつま。寛永中のすも近くまる人あるべし。これらの物語ものがたりも。世あておくみとわもへかさつけもまらあらうふ頃ころ日の烏帽子折えがしの印いん本ほんと得えてえきたに牛うし若わのいでまちとつふふ左のことくあり

ひもつけひもつけふからまぬをもつて。地をハ山鳩のろろ。一もけさつともいて十八五しのいとをもつて。もの上まがぬひものを。ありくそめふてゆまづゆんでのひもつけふ井垣鳥居社壇をぬひめてれひもつけふからまぬを三本ぬふて云下畧

これハ家翁がひもつてくたぐたぐ。右の文はすうてつけくともあつたあまのけかむりりのものも昔のものもまふふゆいりりありかりあふえま

三 浅草並木櫻并浅草寺船形手水鉢

寛永二十年印本 吾妻めぐり草紙二冊あり杏園浅草の並木水鉢ありしり。浅草寺に船のかちちの水鉢ありしりと志ろといふ一とをもふべさすうあね抄しやう出して左ふあとはる

吾妻めぐり 下の巻に

めぐりて浅草のいぬく堂ハぬくよおをなまやくつまにけり。並木の花ハかづまて。木を急に光りつりましからちをかけのあらそふ事理の枝を相生の松とぬをくくらぬ水すいの峯の春もも。これハいりでまるらべさ。中畧寺堂ふあねハ水鉢。ちくらおよぶぬ大石を。船のくちふつりあと中畧きまらうちやららい觀世音。二世安樂をまさせして。うちの又つけをあがむれ

上ふあつたき音のこころ。古器をなせり。又る所不調法の物にて。今この世の人誰か知る不便ある物をもちて。昔人の老實ある風をなすべし。藤綱がもちたて。實否ハあらず。何み水目あれざる。あつたき器さつべし。又云。むじの料理。さかき膳といふありて。今もいそひ日ふ。矢根をへぎて。さかき膳をつくる。彼器その大根をわろくふ。あつたき人云。勝武革にへかあ。さかき紋あるを。山葵おしと称す。彼器の形より云。いせーあんとつふ。たもあつたき云。

七 榎本其角傳

寛文元辛丑年七月十七日生。榎本ハ母方の姓と云。本姓ハ竹下。一ニ竹其瓜菴父を東順と云。江州堅田人始医を以て某侯不仕へ辞して後隱者とある。曾和敬連歌俳諧と云。由良八郎を弟の正春を師とす。元禄六年

八月廿八日没。享年七十二。芭蕉菴母ハ貞享四年四月八日没。其角幼年の時。神田おむが池おをみ。幼名を源助。一ニ源藏ト云。又と云。い

とぞ。翁菴翁説あり。延宝のこども。桃青が門お入て。俳諧を学。い。五元集

おえぬ。十四五歳の時。延宝二十歌仙田舎の白合。等。小螺舎ある。い。螺子。こ

あり。初名あるべし。一蝶。い。かけの賛。小螺舎其角。い。その原。小麒麟角と

もかけり。江戸鹿子。江戸呂鑑。等。小亀鶴とある。ハ誤。あ。い。晋其角

と稱す。ハ易经。晋其角とある。ふ。も。つ。けり。宝晋各。八。米元。章。が。硯。小鑑。う。ら。文字。之。其。硯。を。得。て。宝。晋。の。二。字。宝。井。晋。子。と。云。ふ。よ。く。か。ふ。り。と。て。佐。玄。龍。小。遍。額。を。か。ち。あ。て。菴。お。か。け。則。宝。晋。斎。と。号。せ。し。よ。五元集に。い。ぬ。幼年より儒を寛齋先生。小字。い。医。を。草。刈。某。小。字。い。医。道。の。名。を。順。哲。と。云。其。瓜。菴。詩。を。大。山。顛。和。尚。小。字。い。ふ。

其角 昏始 玄菟 學中 江町 破笠 此時服部 破笠 此時小川 等 其角 同居 破笠 日記 老のふみ 本 寫 等 不 又 也 江戸 鹿子 江戸 菖 鑑

書、玄龍、小学、後一家の風を、画、一蝶、小学、びぬ、曾て、水、水、町、
實名、堀、木履、を、商、ふ、家、の、く、く、小、を、み、て、狂、面、堂、を、号、を、貞、享、の、以、
江、町、
此、時、服、部、
破、笠、
此、時、小、川、
等、
其、角、
同、居、
破、笠、
日、記、
老、の、ふ、み、
本、
寫、
等、
不、
又、
也、
江、戸、
鹿、子、
江、戸、
菖、
鑑、
等、
不、
其、
角、
が、
住、
野、
堀、
江、
町、
と、
あ、
る、
八、
則、
て、
水、
水、
町、
の、
子、
之、
幼、
年、
より、
此、
不、
住、
一、
と、
な、
布、
し、
元、
禄、
三、
年、
板、
一、
つ、
を、
昔、
不、
居、
を、
う、
つ、
て、
と、
か、
き、
て、
一、
風、
あ、
ち、
や、
が、
て、
あ、
ド、
ま、
ん、
冬、
籠、
と、
あ、
れ、
バ、
元、
禄、
三、
年、
の、
冬、
と、
水、
水、
町、
より、
い、
づ、
く、
へ、
轉、
宅、
せ、
一、
あり、
五、
元、
集、
に、
神、
明、
町、
不、
居、
を、
一、
め、
て、
と、
か、
き、
て、
行、
合、
の、
札、
か、
つ、
を、
き、
か、
ぐ、
う、
竹、
と、
あ、
る、
を、
考、
ら、
ふ、
と、
水、
水、
町、
より、
神、
明、
町、
へ、
轉、
宅、
し、
と、
あ、
ら、
る、
春、
の、
白、
あ、
ら、
ん、
皮、
笠、
帽、
お、
六、
月、
廿、
日、
居、
を、
轉、
宅、
し、
と、
あ、
ら、
る、
竹、
三、
竿、
を、
う、
え、
つ、
け、
ら、
る、
不、
頼、
お、
も、
と、
ろ、
び、
ら、
る、
声、
あ、
り、
て、
と、
か、
き、
て、

きて、句、あ、ら、ハ、元、禄、十、一、年、の、子、之、と、あ、ら、れ、バ、元、禄、十、一、年、六、月、廿、日、神、
明、町、を、又、轉、宅、せ、一、あ、ら、ん、同、書、午、寂、が、句、の、一、が、ま、た、晋、子、南、港、
お、う、つ、り、竹、を、植、て、有、竹、居、と、号、を、と、あり、南、港、と、あ、れ、バ、神、明、町、
を、轉、宅、せ、一、也、芝、邊、の、や、う、に、お、か、え、る、元、禄、十、一、年、十、二、月、十、日、池、魚、
の、災、お、あ、ひ、て、家、を、し、あ、ひ、ら、る、は、焦、尾、琴、の、序、お、あ、ら、ハ、か、の、南、港、
お、居、住、の、時、あ、ら、べ、
焦、尾、琴、の、跋、を、え、る、に、
五、元、集、に、類、焼、の、以、
迎、鄙、
の、居、を、同、て、一、樽、不、雞、卵、を、か、ら、る、人、あ、り、か、き、て、句、あ、れ、バ、彼、芝、邊、お、
類、焼、の、後、と、な、ら、る、く、邊、鄙、お、住、一、と、な、お、り、
迎、鄙、と、い、ふ、い、つ、れ、の、あ、ら、
つ、お、ひ、ら、ら、あ、ら、む、と、
和、漢、文、操、
不、其、角、が、号、雷、柱、子、と、あり、
若、葉、
類、柑、子、
号、を、え、る、バ、
涉、川、と、い、ふ、り、
又、狂、雷、堂、
六、藏、菴、
善、哉、菴、
文、合、菴、
元、禄、十、年、
歲、旦、帳、ニ、ア、リ、
等、の、諸、号、
あり、
画、名、
を、著、者、子、と、い、ひ、

一八折ふふれての戲号あるべし。元禄のまゝ茅場町薬師堂の
邊に住ぬ。類柑子に草 そのちりきあうり 植木店とつふ所ふ。祖来
先生の家あり。其角が口をさみふ。 祖来翁その以葺園を号す葺園と
梅が香や隣ハ秋生惣右衛門 おまゝ一是茅場町ふ居住の証あり

此句つづぬの集おもええざれどももつづ人口も残り。實否ハ志ト
を宝永四年丁亥二月晦日没す。享年四十七。二本榎上行寺に葬る。
法名喜覚居士。又深川森下町長慶寺に墓碑あり。其角病床ふ
画一。無眼の達磨一紙をうづむと類柑子ふえぬ。同書白櫻其角
をいさむ句のそーがきに。此所ふ年ひさしく住ふ水ぬれ。鏡の渡
守も袖をひくそとあゆむ。茅場町ふ住し時。おまうりころ子あそ
りけり。宝永四年二月廿三日春暖閑炉ふ坐ルの吟とて

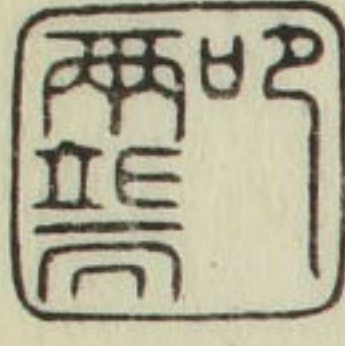
雪の曉寒——まろぐら

そして病ふふ。ぶらうふ七日を過て。おまうりころ子
ふえぬ。是其角一生の口をさみふのかざりとあん 本朝文鑑 辞世ト云ハ非之

▲其角著書目録

- 田舎句合一 延宝八 みぶし栗 二 天和三 負享元 新山家 日一 日二 續みぶし栗 日二 日四
- 花つみ 二 元禄三 つつを昔 日一 日年 雑談集 日二 日四 秋の露 日一 日六 枯尾花 日七
- 句兄弟 三 日年 若葉合 日一 日九 裏若葉 日十 錦繡段 日年 三上吟 日十三
- 焦尾琴 三 日十四 くれう家 時代不詳 新二百頁 一 類柑子 三 遺稿 五元集 日四 日五
- 新三百頁 一 以上二十一部

▲其角印譜 清山白石の印人の不



叩兩端

宝月其角



十歳入學

大圓寺

十四歳 於堀江町

本草綱目写

源治 主治 發明

十五歳

内經素本

易經素本写

五帝書集 需之伊勢物沢毒之

右表帛出来本

段一紙之

衣之襪義

刀

十六歳

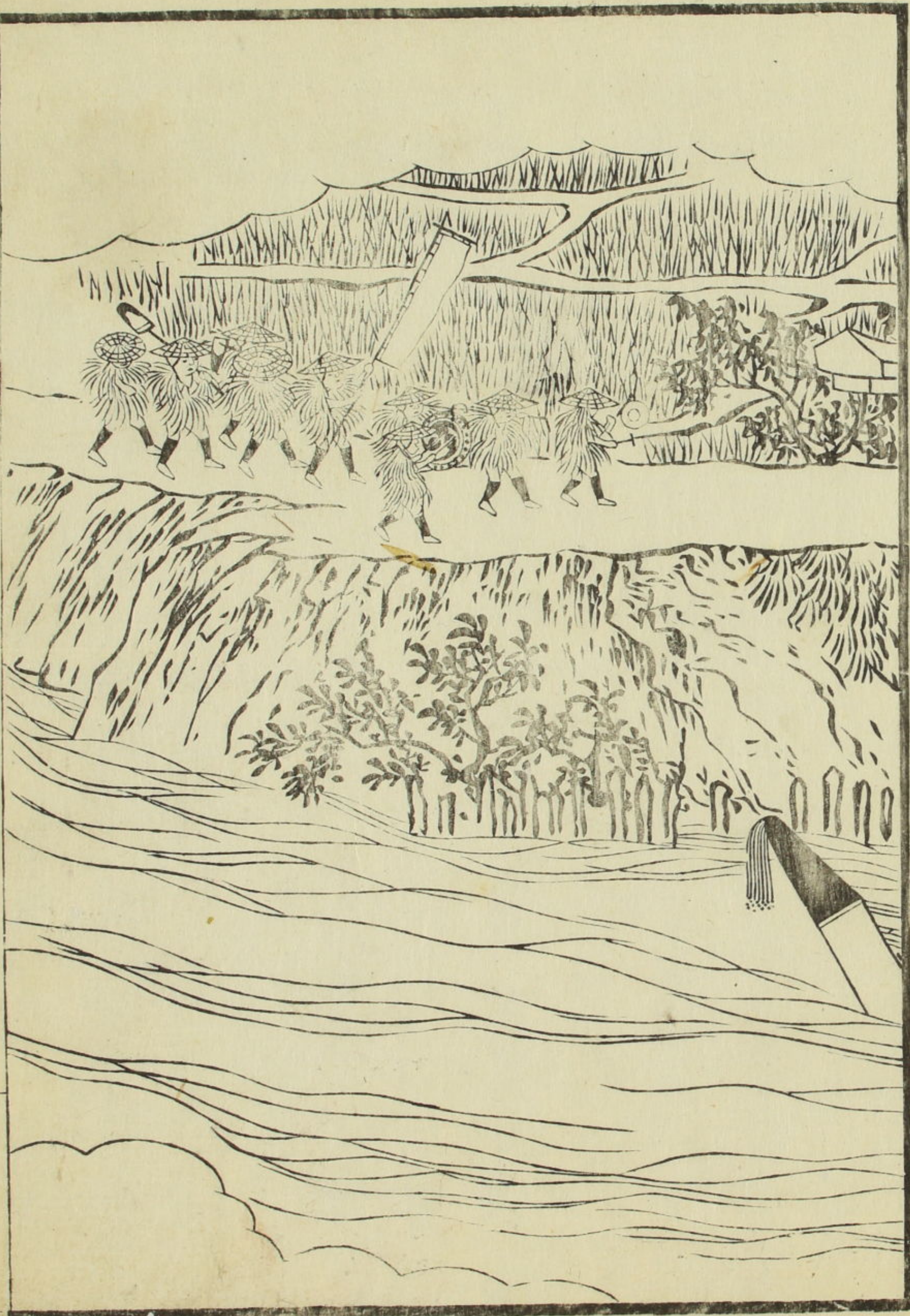
新書
ヨリ拾
居伊
証トス

円覺寺 太巖和尚詩學 易傳受

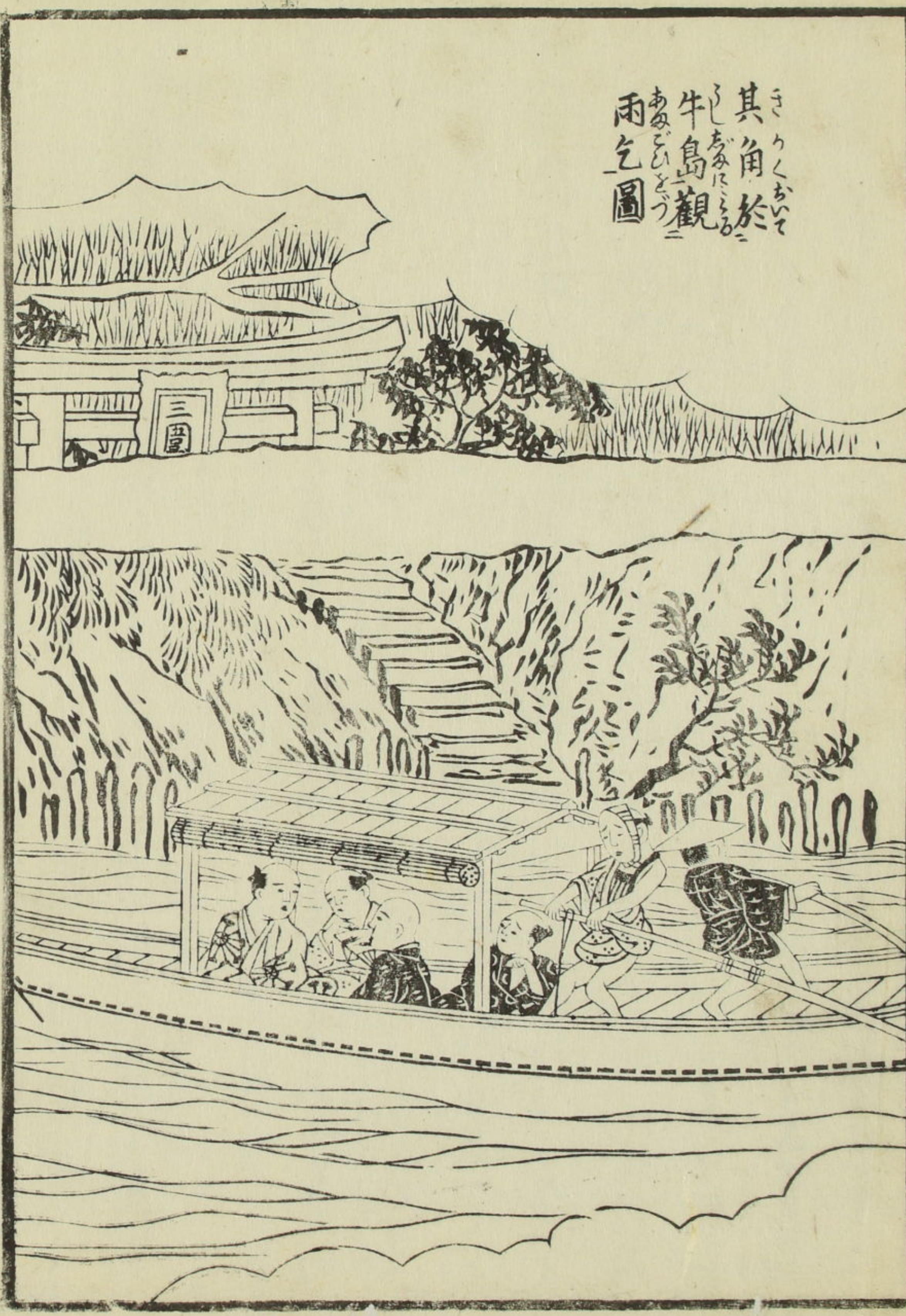
其角がらすやつきてハ此余くまの説話あるべし九牛が一毛を去りて
後の明鑿をまつのみ

八 其角雨乞句考

其角牛島しづまして雨乞を乞る者ありて **五元集** 夕立や田をみめくらの
神ありとせしハいつ日の日ふや詳ありざるありて予三圍よこめがらの社しやまふ
つきて。さう祐一に。元禄六年六月廿八日の事とぞ。然則其角三十三
歳の時一説せつふ南茅場町回船問屋某ある俳名を白雲くらくんとふ人
ふいふあり。船ありびみ出て。此よりありとぞ。案る不能の因法師雨
乞の歌うた **金葉** 銀河あまのありろ水ふせきとぞ。世天々くまを舞ふ
トハ神。此歌ふもつさく句 **五元集** に翌日雨ふるとあるを以
て。須臾しゆゑふらじと云説を。日ごろふりおらひらるふ。元禄六年に



其角於
牛島觀
雨乞圖



生れくる隠士一 奉一堂之記詞花堂 蔵写本 をえられた。左のごとき文あり

晋其角。或年與門人同船而遊隅田川。今茲天下旱魃而田面無水。門人等望雨乞之。旬晋辞不止。故作句須臾雨降。世人

感其俳德。

此記露こゝろもくもく。いつくろぐゆきまを。かきくものふあは。於此おもへば。元禄中の人。もてに此をを傳へて。風流の話柄と。ころを奉一堂。まほむさころあは。雨の降。いづれの日もあれ。せこそりて。此を語り傳ふ。其角が。ふれとつあ。一かの句はもと。エタカと。折句。ひそくに。豊作の語を以て。一と。著作堂主人より

九 金龍山奈良茶飯

西鶴四買土産元禄六 年板本 おつふ。近。金龍山聖天の茶を。一人五分の

奈良茶を仕出。いろ小器物の綺麗さ。色くとの。さりと。は。

の者れ勝手のよき。中く上。か。あも。かる自由あり。云。事跡合考

云明曆大火の後。浅草金龍山待乳。明前の茶店。小始て茶飯豆腐

汁。煮湯煮豆等。をその。て奈良茶と名づけて出せ。を江戸中は

は。より。も金龍山の奈良茶。とひふ。く。と。この外。めづ。は。さ。り。小

無。ド。り。ろ。れ。り。わ。ひ。く。さ。あ。ぐ。の美服店。出。あ。り。う。つ。し。く。彼。聖。天

の山下の奈良茶。衰微。ふ。お。よ。び。り。云。安。る。ふ。江。戸。小。あ。ち。や

十 芝神明千木櫃考

江戸芝神明の祭礼。毎年九月あり。曲物の小櫃。鮮土生姜を賣る。これ

を生。姜。市。を。り。彼。小。櫃。を。土。人。ち。ぎ。び。つ。と。云。木。を。落。く。を。ぎ。て。飯

櫃。形。小。曲。と。る。小。丹。を。録。青。を。も。つ。て。あ。不。茶。如。此。藤。の。花。の。給。あり。此

ち。ぎ。び。つ。の。説。さ。ぬ。ぐ。あ。り。と。之。が。も。み。あ。妄。説。之。案。る。不。凡。俗。文。選。吾

仲が飯鮓銘ちゆうがはんしゆめい小云飯鮓ちゆうがはんしゆいつれの時いつれのときよりして申まをしけむ此六条の名跡このむさしのなあと
 おハのりりう今ハおわやけのなりものふかぢふぬを下さゆの人ハ日をあつ
 限りかぎても待まちべしまて卯の花の咲さころハ此ものけしきも清きよくハあふ藤ふじ
 の花の咲さ時ときふそぬが節ふしをあそせたりんいうある人の深ふかき心こころを侍まじりえん気き
 して二季草ふたきくさの名なも世よの人ひとハふ下くだ器物ぶつハ杉さきの香かぐもてつけたる折お入いレ
 て此花このはなをかぢしあも又またハ文ふみあを付つてやるべ下くだかぐともじまやあぬまきまて
 上あまづがぬのもてあそびのもちある下畧りやくかあのあづくあはハ彼ちぎびつハもと物と
 ちぢぢびつ云い名なハもと社の杉本もとの金おおてつくりし也急いそぬあるハハひらるもかて
 再また字あらうた飯鮓はんしゆハ京六ろく条じょうの人ひと家いえア製也せい也なり飯はん鮓しゆ小こ藤ふじの花をさるもちある
 後のち例れい黒くろ川がわ氏し雍お州しゅう府ふ志し卷まき之の六む土つち産う門かどカレスエ一い

奇跡考卷之三終



